



<p>安達 愛 あだち あい</p>	<p>日本近現代文学</p>	<p>①経歴・職歴 さいたま文学館、文化資源課を経て、現在は埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員。</p>
	<p>児童文学</p>	<p>②過去の実績 H30 企画展「詩人・吉野弘 やさしいまなざし」(さいたま文学館)</p> <p>③研究業績等 「新型コロナウイルス禍における体験学習の取り組み:「火おこし実演」を中心に」(『紀要』16号、歴史と民俗の博物館、令和3年3月)</p> <p>④メッセージ 現在は歴史と民俗の博物館で学習支援を担当しています。子どもから高齢者の方まで、埼玉の歴史や昔の人々の暮らしについて、楽しみながら学べるよう努めてまいります。</p>

<p>大明 敦 だいまよう あつし</p>	<p>日本近代文学</p>	<p>① 経歴・職歴 県立博物館、民俗文化センター、さいたま文学館、さきたま資料館、歴史と民俗の博物館を経て現職</p>
	<p>詩歌、宮沢賢治の伝記研究</p>	<p>② 過去の業務実績 さいたま文学館企画展運営(平成28年度以前は省略) H29「埼玉の文学散歩」 H30「田山花袋と明治の文学」 R01「『文芸埼玉』創刊号ゆかりの人々」 R02「俳画コレクション 岡本癖三酔作品展」 R03「文学館の宝箱2021」</p> <p>③ 研究業績等(平成28年度以前は省略) H29「宮沢賢治の埼玉来訪ルート再考」歴史と民俗の博物館『紀要』11号 H30「与謝野晶子歌稿『山泉抄』について」『全国文学館協議会 紀要』11号 R01「文学館と漫画・アニメとのコラボレーションについて」『全国文学館協議会 紀要』12号 R02「雑誌『文学の室』について」『全国文学館協議会 紀要』13号 R03「正岡子規と埼玉」『さいたま文学館 紀要』創刊号</p> <p>④ メッセージ 文学に親しみを感じてもらえるような展示をめざしています。</p>